

第14回宮城山形将棋対抗戦記

今回、私足軽の分際ではありますが、宮城軍の精鋭部隊を率いて来るように総大将の大村芳男さんより大役を申し付けられました。

当日8時30分、仙台駅東口に一騎当千の強者が全員勢揃いしたところでホテル差し回しの送迎バスに乗り込んで、合戦場である七日原(宮城蔵王)へ向けて、いざ出陣。

会場に到着するとすでに盤駒の準備が整っていて、総大将の懐刀である大坂昌幸さん以下“花の運営トリオ”の異名を持つ杉山和枝、佐藤裕美、伊藤裕美のお三方が受付をしておりました。

過去宮城の対戦成績は6勝7敗で、今年は是非とも優勝して相星にしたいところ。久しぶりに福島から星宮謙君、数日前に急遽申し込んできた神奈川の仲村勇之助君たちが馳せ参じてくれたので大いに期待ができます。

10時過ぎ両軍の武者が揃ったところで開会式が行われて健闘を誓い合いました。そして開幕第1局目の対戦相手も決まり、対局開始の合図があって合戦の火蓋は切って落とされました。

毎回のことながら1局でも勝ち越したいと思い初戦に臨みましたが、残念ながら負けてしまいました。昼食後の第2戦は何とか勝つことができました。そんな中、お待ちかねプロ棋士の3先生が入場してまいりました。

今年は実力派の鈴木大介八段、飯塚祐紀七段、それに才色を兼ね備える室谷由紀女流初段という豪華なメンバーで、小休止をする暇もなく早速多面差しの席に着かれて対局開始となりました。私は3先生とすでに1局ずつ指導将棋を指していただいております。今回は飯塚先生に凶々しくも角落ちをお願いいたしましたが、結果は当然のことながら金星とはなりません。ここまでが初日の前半戦です。

さて、これから始まる後半戦(懇親会)が私にとっては主戦場となります。大方の皆さんと同様で毎回将棋以上に楽しみにしております。Y・Oさんからは「宴会力：Aクラス」と紹介されておりますが、今は精々「B-1」がいいところでしょうか。

「初めチョロチョロなかパッパ」飲むほどに酔うほどに往年の実力が戻ってまいります。(将棋もそうだといいのですが・・・) 宴たけなわともなって、由紀女流初段がお酌に回ってきてくれました。うまい酒を一層おいしく飲むことができました。6月に不慮の事故で亡くなった棋友も天国でさぞ羨んでいることでしょう。由紀先生は自ら「将棋は初段、書道は二段、酒道(?)は四段」と公言していましたが、将棋も是非タイトルを目指してもらいたいと思います。

その後、鈴木先生も私達の席にまでおいでになって歓談いたしました。先生はその飲みっぷりにおいても正真正銘の“超”Aクラスです。そこに写真撮影役の高橋律子さんがやってきました。律子さんは私達中高年棋友のアイドルです(何も出ません：管理人)。将棋では二枚落ちでプロ棋士の先生に絶対的な自信を持っていて、大きく勝ち越しています。そのことを私が鈴木先生にお話ししたところ、大介先生は「では明日指しましょう。」と挑戦を受けてくれることになりました。果たして結果は如何、明日のお楽しみに。

会場内では依然として大宴会が延々と続いていましたが、次の予定もあって大盛会のうちにお開きとなりました。

ここからはゆっくりと温泉に浸かる人、将棋を指す人様々ですが、私としては当然の如く夜戦(二次会)に参加です。私は少し遅れて戦場に赴くとそこではすでに戦いが始まっていました。あとからあとから弾(酒)が出てきて互いに打ち合いです。大介先生は飲みながら指導将棋も指しています。「これで私の勝ちです。」「これであなたは負けでしょう。」と聞こえた様な気がしましたが、私が酔っていたからでしょうか。飯塚先生も周りの酔っ払いを相手にニコニコと話をしていました。石巻軍団は浅野邦雄最高司令官を中心にしてまとまりがよく、且つ賑やかで、宮城将棋界についても熱く語っておられました。

夜も大分更けてその場にいるのは両先生と私達数名だけ、秒読みが続く攻防戦でしたが、明日の余力が残っているところで「持将棋」の宣言をしてお開きといたしました。時はすでに子の刻を過ぎていました。お疲れ様でした、お休みなさい。

2日目の朝、目覚めたのは7時過ぎ、普段は5時前後というのにどうしたことか。そうだ寝たのが遅かったからだ。朝風呂にも入らず朝食会場へと急ぐ。これからの対戦に備えてしっかりと食べました。

私は今日3勝しないと勝ち越せませんが、結果は2勝1敗、その2勝はいずれも「切れ勝ち」で時計が味方をしてくれました。2日間のトータルは3勝3敗の5分で終わりました。ところで、鈴木大介先生対律子さんの対局はどうなったか、大勢のギャラリーが見守る中、律子さん善戦むなしく負けてしまいました。敗因はどうやら昨夜、私が律子さんにプレッシャーをかけ過ぎ、また先生を挑発して本気を出させてしまったからのようです。

対抗戦は山形軍がアウェイで勝利して見事連覇を果たし、両軍互いに健闘をたたえ合っ
て閉会となりました。主催された花輪さん、大村さん、そして運営に携わった関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

帰り支度も済んだところで、戦い終わった宮城の精鋭諸士とともにプロ棋士の3先生を仙台までお送りするため、バスに乗車して戦場を後にいたしました。車内では先生を中心に和やかな歓談が続く内に、5時過ぎ仙台駅東口に到着いたしました。

先生方の新幹線の出発時刻まで時間がありそうでしたので、鈴木先生に「よろしければ牛タンでも一緒に」とお誘いしましたら「私達もそう思っていました。」とのこと、双方の読み筋が一致しましたので駅ナカの牛タン通りに向かいました。ところがどの店も行列ができていて入れず、やむなく2階のそば屋に行きましたら、ここもあいにく工事中で、私の読みはすっかり外れてしまい次の指し手に困りました。

ここで大介先生が「それじゃお茶でも飲むことにしましょう。」と助け船を出してくれたのでドトールに入りました。すると店の奥の方に今日別のイベントで来仙していた森下卓先生がいるではありませんか。「なんとまあ !!」こちらはお互いに連絡を取り合う前に合流され、4先生揃って東京へお帰りになりました。でも、先生方にはお疲れのところ無駄に歩かせただけになってしまい大変申し訳のないことをいたしました。次の機会には必ず実現いたしますので今回はご容赦ください。

こうして私の対抗戦は最終盤で大波乱を起こしましたが、皆さんにはご迷惑でしょうけれども参加者の最高齢者になるまで頑張ろうと思っております。今後ともよろしく。

(柳澤勇吉 記)